

令和7年度第3回焼津市認知症対策連絡会議 議事録

1 開催日時 令和8年1月28日(水) 18時30分～19時55分

2 開催場所 焼津市役所本庁舎1階 会議室1A

3 出席者

(委員)

新井恵子委員(会長)、深沢直樹委員、天野雄一郎委員、丸山敏彰委員
五十右直委員、大石直子委員、林綾子委員、内野紅委員、小谷幸代委員、山中琴恵委員、酒井直樹委員、夏苺直己委員、
※豊山弘之(副会長)は欠席

(事務局)

飯塚隆晴地域包括ケア推進課長
※以下、地域包括ケア推進担当
松田智仁係長、松村美代子主査、峰澤卓巳事務員、萩原葉子看護師
※以下、地域包括支援センター(認知症地域支援推進員)
北部：篠宮聡志、中部：高田由利子、南部：五十右億子、大井川：桶川麻保
※以下、認知症疾患医療センター
焼津市立総合病院：星野真寿美、やきつべの径診療所：寺坂久仁子
※以下、チームオレンジコーディネーター
望月隆仁、坂本彩加

4 内容

開会

(司会より開会宣言)

挨拶

本日はお忙しい中、認知症対策連絡会議にご出席いただきましてありがとうございます。皆様には日頃から認知症の方やそのご家族への対応をいただいているかと思いますが、制度や専門職等の限られた人たちの役割とかだけではなくて、地域で生活されている方々の日頃のちょっとした情報交換や共有、また連携が支えになっていると、最近さらに感じております。本日もそれぞれのお立場から今後の認知症施策について忌憚のないご意見をいただければと思っております。限られた時間ではありますが、何卒よろしく願いいたします。

報告事項 (1) 令和7年度の活動及び令和8年度の方向性について

(事務局より説明)

会長 ただ今の説明に関して、お一人ずつご意見をいただきたい。

委員 ステップアップ講座に17人申込があったということで、非常に増えているが、周知の仕方を変えたなど、何か理由はあるか。

- 事務局 ステップアップ講座は認知症サポーター養成講座の応用編になっている。募集については、9月27日に実施した1回目のステップアップ講座以降に認知症サポーター養成講座を受講した人に対して郵便で応用編がある旨を通知した。その結果、17人から申し込みがあった。
- 委員 認知症サポーター養成講座の受講者が増えると、ステップアップ講座の受講者も増え、取組として良いと思う。周知の仕方を工夫して、続けていければ良い。
- 事務局 認知症サポーター養成講座が基本となるため、受講者増加に向け、引き続き取り組んでいきたい。
- 委員 認知症地域支援推進員への相談受付件数が12月末で133件とあるが、その内容はどのようなものが多かったのか、例年通りの対応だったのか。また、服薬管理の課題等、重々承知しているためしっかり連携できていければと考えている。
- 事務局 昨年度資料では、11月末現在で282件だったため、この数字は少ないなど感じたが、認知症に対する相談が減ったというよりは、集計方法の変化によるもので、地域包括支援センター全体ではなく、認知症地域支援推進員として受けている件数が133件という集計であった。地域包括支援センター全体では認知症の相談件数は増えていると思う。対応としては、認知症への不安などで、介護保険につながる人もおり、初期の段階での相談も出てきていると感じている。
- 委員 進捗状況としてどの程度進んでいるのか、数字で見てわかると良い。内容的には特に問題ないと思う。
- 委員 精力的に色々取り組まれていると感じた。本人ミーティングは、私も昨年度まで認知症地域支援推進員という立場で携わらせていただいたが、当時は人集めに注力しており、「どれくらい来てくれるかな」というところからやっていた。コアになる人に毎回来てもらい、習慣化してくる人が出てきて、そこから軌道に乗ってくると、次の段階として、安定的に1か月に1回はこういう場があるということが習慣化していくと良いと話をしていた覚えがある。今年度、市立病院と医師会の2会場で10回やっていただいて、参加人数も増加傾向と説明があった。当時より参加してくれる人、コアメンバーみたいな形で参加してくれる人が増えたと思う。またここから習慣化して、色々な広がりや発信をしていけるのかなと印象として思ったところで、いい形になっていければ良い。どういう運営をしているのかなど、またぜひ伺いたい。
- 委員 認知症の理解の促進のため、認知症サポーター養成講座は以前から取り組まれており、毎年何名も参加されていると思う。当初は関係機関や専門職が結構多かったのかなと思うが、年々回数を重ねるごとに、個人や一般の方の参加がどのくらい増えてきているのかが気になった。また、市民に対して分かりやすく認知症を理解してもらうために色々な講演会などをされている。ご家族はいきなりサポーター養成講座と言われても少し敷居が高いと思うので、サービスは使っていないがちょっと相談したいとご家族から聞いた時に、まずは講演会があるから行ってみたらと勧めるのが、入り口として敷居が高くないと思う。また、参加した方が見て終わりではなく、次につながっていくような流れができると、地域の方の協力なども増えていくのかなという感想を持った。
- 委員 認知症啓発イベント（Dフェス）について、高齢者世代だけでなく、若い世代に知

ってもらえて、すごく良い取組だと思った。ご依頼があったので、当法人でも協力をさせてもらったが、市内の事業所を巻き込んでお声掛けいただけたらご協力できるかなと思う。また、チームオレンジについては、事業者側としては、職員もあまり認識が高くないのかなという感覚がある。「チームオレンジ活用ガイドブックを作成する」とあるが、そういった物を我々にも共有してもらえれば、ご家族や介護経験者の方がたくさん関係者にいるので、配布できればいいかなと思った。認知症初期集中支援チームについては、ケースとしてはそれほど多くないという印象だが、もう少し相談件数が増えてきても大丈夫な状況なのか、増やしたいという感じなのか。

- 事務局
委員
委員
- 現在4チームあるため、相談件数が増えても問題ない。
- 了解した。サービスを利用していないが困っているという相談が来る場合があるため、その際はまた相談させていただきたい。
- 色々な取組をされている中で認知度が上がっていったりとか、参加人数が増えたりとか、数的にも感じる。こういった取組を通じて地域と関わりがあるということを発信することによって広がっていくと実感した。実際、相談ケースの内容にもよると思うが、どのくらいの期間で介護保険に結び付くのか。
- 事務局(地域
包括支援セ
ンター)
- 相談内容は、認知症になることが心配という相談や、地域の中に心配な方がいるという相談、認知症が進行しているが医療機関を受診しておらずどうしたか良いかという相談など、いろいろなケースがあるため、介護保険へつなげる期間は様々である。一度相談を受けても、一旦地域のサービスでやってみて、半年後にまた相談するということがあれば、気になる場合はこちらからも連絡を取り、フォローする形で関わっているというケースもある。
- 委員
- 本人ミーティングが定着してきているとのことだが、本人ミーティングの本来の目的を見失わないでいただきたいと思う。本人ミーティングは、当事者の方が安心して話せる場所であり、聞いてもらえる場所である。その方のご意見は、あくまでもその本来の目的から生まれた副産物であるべきであって、そのところを忘れずに、これからは皆さんが行きたいと思える場所を作ってほしいと思う。また、認知症初期集中支援チームは、支援件数が少ないということだが、本当にいいシステムで、いい組織だと思うので、知られていないのか、上手く利用されていないのか、もったいないという気持ちがある。ただ、結び付いたのが2名だけで、そうでなかったケースもいくつかあるのか。せっかく良いチームで体制を組んでくれているので、利用しない手はないと思うが、周知が足りないのか、もっと市民の方に利用してもらえるようなチームになってもらいたいと思う。
- 委員
- 認知症初期集中支援チームにつながるケースが少ないのかと考えた時に、最近家族に認知症の人がおり、対応に奔走している最中である。私は、長い期間こういうことに関わっていたため、知っているつもりだったが、以前やっていた時から現在までに、認知症の症状や対応は多様化していき、自分の持っている知識では足りないこともあった。早期発見・早期治療が大事だと分かっているけど、どの医療機関に行けばいいのかということも分からなかった。また、地域包括支援センターにも行って二度ほど相談をしたが、認知症初期集中支援チームには、こうした部分を上手にアドバイスしていただくことが大事な気がする。私は地域包括支援センターや医師に相談すればいい

いということが分かっているが、初めて家族が認知症かもしれないと疑問を持った時に、動き方が分からない家族がとてもたくさんいると思う。よって、チームのことを事細かく説明し、分かるようにしておく。やはり民生委員の方に一番そういうことを知っていただいて、身近や地域にそういう方がいた時に、民生委員が一番アドバイスしやすいんじゃないかとすごく感じた。地域包括支援センターに行って、とてもプラスになったので、色々な情報を入れていただくことが大事だと思う。

委員 報告事項を見ると、少しずつ数も増えたり、進んでいたりする部分もあるのかなと思った。チームオレンジは数も多く、色々取り組んでくれるようにだんだん増えてきたと思うが、もう少し、このチームでこんなことやって良かったよとか、これはうまくいかなかったよとか、具体的な報告があれば良いと思う。今後の方向性として、チームオレンジの皆とどこかで色々な情報共有を具体的にできたら、この仕組みとして良く、お互いも刺激も受けるかなと思う。また、認知症初期集中支援チームの支援件数が少ない点は気になった。例えば、民生委員の方とか、地域で見回っているような方との連携や掘り起こしというか、チームが拾い上げにかかるということができればと思う。

委員 1点目は、市でステップアップ講座をやっていく中で、だれがどのようなやり方で、どのように担って実施しているのかお聞きしたい。2点目は、私が認知症サポート医の交流促進事業を実施しており、そこで先進地域の発表を聞かせてもらうが、静岡の西部地区の医師は学校への出前講座みたいなものを、認知症サポート医が教育委員会と一緒して、小学校などに出張してお話しできるような体制ができている。焼津市でも、認知症サポーター養成講座を、小学校4校で229人とか高校で33人とか、実際にやっているんだなど、ちょっとびっくりしたが、これはどうやって誰が担っているのかお聞きしたい。3点目は、チームオレンジコーディネーターの活動で、地域のお寺と共同した認知症啓発イベント(Dフェス)の開催とあるが、これはどんな感じでやったのかお聞きしたい。

事務局 ステップアップ講座は、2名のチームオレンジコーディネーターが中心となって、実施している。内容としては、認知症サポーター養成講座で教えている内容をさらに深掘りして、認知症に関する講座を行い、後半部分では参加者がグループごとに分かれ、認知症の事例を提示し、その方に対してチームでどのように支援していけば良いか意見交換をするというようなもので、事例を2件ほど行っている。

学校等への出前講座については、チームオレンジとして活動する清流館高校ではとして毎年実施している。小学校は、年度当初に出前講座に関するチラシを学校に配布し、学校側から連絡を受け、実施している。主に総合学習の中で福祉を学ぶ小学4年生が多く、今年度は、黒石小、大富小、大井川南小、大井川西小で実施した。

委員 それは誰が担当して実施しているのか。

事務局 基本的には、学校が所在する地域包括支援センターで実施している。

委員 私にもお声がけいただければ、認知症サポート医として、協力できる医師がいるかもしれない。

事務局(チームオレンジコーディネーター) 認知症啓発イベント(Dフェス)については、9月28日に実施し、来客数は延べ300~400人ほどだった。認知症のイベントとして周知すると集まらないため、音楽とダンスのイベントを組み合わせている。音楽に関しては、出てくれるアーティスト

ーター) トに懐かしい曲も混ぜながらやってほしいと依頼している。市内のフード店に出店していただき、食べ物も食べられるようにしている。今年度はデイサービスでやるようなレクリエーション等を若い人たちにも知っていただくため、境内で開催したり、認知症のブースを出したりして、市や地域包括支援センターが出している資料等を参加者に配付した。オレンジの色のものを着ていたらプレゼントをしたり、パンフレットを持って行っていただけるよう粗品を付けたりしている。今年度は、市の認知症に関するアンケートの呼びかけも実施した。

委員 境内では盆踊りなどがあっても、良いと思う。

事務局(チームオレンジコーディネーター) ぜひ次のDフェスでも考えてさせていただく。補足として、焼津市の「認知症よくわかるた」を、大きく拡大したもので、子ども達にやってもらったりもした。

事務局 学校については、市を通じて教育委員会へ話をするのが良いと思うので、また相談していただければと思う。

委員 ご家族と市町の担当者の方と、場合によっては本人と私がネットでお話するというものだが、これはまさに焼津市で私が関わっている初期集中支援チームのそれと、ほとんど一緒にみたいなものである。なかなか乗り気でない患者さんが来てくれるようになったというケースもあったので、市の初期集中支援チームの対応件数は確かに少ないが、自分でやっている初期集中支援チームのような取組も、結構色々なことができていたので、なかなかサービスを利用してくれないなどの困難事例等に対しても、そういうファーストタッチも有効ではないかと考えている。

会長 Dフェスの紹介の中で300～400人くらいの参加者があったとのことだが、参加者の年齢層はどのくらいだったのか。認知症市民啓発講演会アンケートの集計を見ると、年齢の高い方の参加が多くなっている。認知症理解の促進というところでは、ベテランの年齢の方だけではなく、若い方々にも理解していただきたいと思っており、その理解していただく場の一つがDフェスだったのかなと思う。年代の集計はしていないかと思うが、コーディネーターの皆さんが見た感じで、どういった方々が多かったのか教えていただきたい。

事務局(チームオレンジコーディネーター) ダンスをしてくれた子たちは小学校低学年の子もいて、その親も一緒にいたので、年代は様々だった。下は小学1年生から、上は介護されている方も来られたので80代・90代もいて、本当に様々だったと思う。

会長 そういった介護をしている方や高齢者が来られている場所に、小学校低学年の方々も来てもらえると、認知症のことや、誰かの助けを必要としている方のことを自然と理解する良い機会になると思った。

協議事項 (1) 認知症施策推進計画策定について

(事務局より説明)

会長 ただ今の説明に関して、ご質問等がある方はいるか。スローガンの案を出していただいたが、この案について、今後も本人ミーティングの場等の機会を通じて意見

を聞く予定なのか。

事務局 聞くことも一つの選択肢ではあると思うが、今後は、基本的に関係者の中で調整しつつ、本人ミーティングなどにおいて発表をしていきたいと思っている。

委員 認知症のプランは「ほほえみプラン 21」に包含されるということですね。前回会議で、ご本人から「認知症」という言葉が重く聞こえるという意見が出されていた。愛称の案のところだが、認知症のシンボルカラーはオレンジということで、オレンジって言うてしまうと、弱ってしまった高齢者を連想することもある。例えば、「あったか認知症プラン」には認知症という言葉が入っている。「認知症」という単語を外して「あったかオレンジプラン」とかにしたら、もしかしたら「認知症」という単語を外すことができるかもしれない。「認知症」という言葉は他の表現でも同じことが言えるのではないかと思った。

委員 私たちが事業所において関わる方は、中度から重度の方が多いが、その方にとって介護保険制度によるサービスは欠かせないものだと思う。私たちもできるだけその人らしい生活を守りたいと思っているが、やはり自宅とは違う環境で生活したり、日中を過ごしたりする中で、集団で介護するため、十分なことができないシーンがどうしてもある。そういった介護事業者のジレンマも含めてお伝えすると、国の基本施策 5 に「保健医療サービス及び福祉サービスの提供体制の整備等」とあるが、市の基本施策ではサービスの提供体制の整備といった文言が入っていないため、そこも入れていただけると、事業所としては、中度・重度の人を支えていくという部分が表現できると思うので、ご検討いただきたい。

事務局 ほほえみプラン 21 と一体的に作られることを考慮すると、ほほえみプラン 21 のほうには介護保険サービスの量と整備計画が入ってくるため、そことの兼ね合いも含めて、ここで書けない場合はほほえみプラン 21 のほうに書くという形で進めていきたい。ほほえみプラン 21 は次年度策定であり、そこも意識して策定していきたい。

委員 基本施策 1 「認知症に関する正しい理解の促進」においては、私自身知っているつもりでも全然知らなかったということも多くあったので、おそらく、既存のやり方では良くないのではないかと思う。認知症サポーター養成講座等においても、テキストを使って行うなどはもちろん必要だが、スキルアップを含めて、もう少し踏み込んだことをやらないといけないと思う。例えば、テキストにはアルツハイマー型認知症の症状について書かれているが、そこに載っていないこともある。今はいろいろな種類に分かれており、複合型もあれば、その方の症状の出方も変わってくるということも知る必要があるのではないかと感じる。また、基本施策 5 【予防、早期把握・早期支援】については、医療費を抑えることも含めて、本当に重要だと感じている。早期把握・早期支援につなげるための施策についても、もう少し考えて提示してもらえるとうれしい。民生委員は大変だが、掘り起こしてもらい、認知症初期集中支援チームにつなげられれば良いと思う。MC I に該当している方や、該当しそうな方は、「自分は認知症じゃない」と言うが、その時点から注意して見守っていくと、非常に良いのではないかと感じるため、そのあたりに力を入れていただきたい。

委員 基本施策4【意思決定・権利擁護】については、私も関わっている身なので触れたいと思う。意思決定・権利擁護について、施策に位置づけをしていただき、大変ありがたいと思う。軽度の方の発信により、新しい認知症観に従ってより良い暮らしを、という施策の反面、介護者との距離があったり、中度・重度で必要な介護を受けられないリスクがあったり、最低限の暮らしを送ることへのリスクがあるなど、そういった方々の声も拾っていく必要がある。そのあたりは、成年後見制度の利用や意思決定支援などで担っていくイメージがある。そういった方々の声にも着目し、拾い上げていく視点も必要だと思う。また、高齢者虐待防止についても、施策に位置づけていただいたのは良かったと思う。国の統計をみると、高齢者虐待を受けやすい方で多いのは要介護1で、虐待と認知症はリンクしている部分があると思う。このスローガンのように、認知症を正しく理解することや、人がつながっていくことが虐待防止にもつながると思うので、高齢者虐待防止は新計画の中でも位置づけていただければと思う。それが虐待の一次予防にもつながると思う。

委員 国の施策のキーワードが「予防」と「共生」だと思うが、ここに「連携」が加わるとより良いものになるのではないかと思う。国の基本施策5は認知症の早期の人だけではなくて、初期の人達のことと同じように予防は入るので、共生と連携という大きな意味を持つキーワードだと思う。基本施策5と7が、焼津市では基本施策5で一つにされているので、早期の段階のイメージをされてしまうと思うが、早期だけではなく、「予防」、「共生」、「連携」が入ってくると良いと思った。また、人とのつながりについては、医療との連携という意味合いもあるが、「連携」という言葉には一般の人と認知症の人のつながりについても触れられる。また、基本施策1ではかかりつけ医・サポート医の連携などにも触れられるのではないかと思った。

事務局 今回の市案の6つの基本施策には、確かに予防や早期把握・早期支援しか入っていないため、考えてさせていただきたい。また、基本理念の下にある「施策の推進にあたる基本的な姿勢（向き合い方、考え方）」は、今後設定できればと思っている。

委員 先ほど虐待の話があったが、虐待は身体に対するものだけでなく、言葉の暴力も非常に大きいと思う。認知症という言葉については、以前は「ぼけ」と言われており、それはあまりにもきつい言葉であるということで認知症に変わったが、今は認知症という言葉でも、本人や家族はかなりショックを受けると思う。認知症になったらおしまいだ、という声も聞く。「あったか認知症プラン」を「あったかオレンジプラン」にして、認知症という言葉を消したらどうかというご意見は、私はとても良いと思う。

会長 他にご意見はあるか。

事務局 今回の6月の会議では、取組内容も含めて、さらに踏み込んだものにする必要がある。次回以降、確定した施策体系の中での取組について提示させていただけたらと思う。

会長 以上をもって、本日の議事は全て終了とする。進行を事務局にお返しする。

事務局 今回は令和8年6月30日（火）を予定しているが、正式な日付は4月以降のお知らせとさせていただく。

閉会